

高崎高校同窓会報

2019
No.53

発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-320-6024

令和元年11月30日

100年間歌い継がれた、 応援歌「翠巒」と「級会の歌」



一、翠巒影を浮かべては
流水長き思いあり
紫紺の霞打ちわたらる
榛名の嶺の姿にて
碓氷の玉に身を照らす

二、名も高崎の西方に
獅子とうそぶく高校の
紅燃ゆる健児等が
今乾坤の曉に
昇る飛躍の第一途

三、來たらん戦思いつつ
北斗を浴びて佇まずめば
浅間に暮色蒼うして
原にたけゆく風霜に
鍛えし腕を君見よや

四、風雲まさに相呼びて
怒涛となりて渦巻けば
胸や千尋海神の
八重の血潮の高湧きて
進む健児の意氣高し

大正8(1919)年、夏期休暇中に応援歌を募集し、5名の応募の中から村田鎮虎(19期)の「翠巒」が採用された。戦後一時期校歌として歌われた。

旧くは「名も高崎の西方に」が「西北に」、又「獅子とうそぶく高校の」が「中学の」と歌っていた。

応援歌 「翠巒」

作詞 不詳

作曲 村田 鎮虎

一、秀嶺榛名紫に
香りもゆかし和田の庄
堅き心に結ばれし
清き級のまどいかな

二、この友得たる嬉しさに
うちつれたちて野に行かん
語らいすればうら若き
心の糸にふるるかな

三、夢よりさめよ若人よ
世は暗黒の時なるぞ
弦月高き夕空に
憂國の歌冴えて行く

四、級の友よ我が友よ
忘るるなけれこのうたげ
我等の旅の終わりまで
長き旅路の一時も

大正8(1919)年、応援歌の応募作の中から清水元寿(19期)の作詞も捨てがたいとしてこれを級会の歌とした。

級会の歌

作詞 清水 元寿
作曲 不詳



大正の助っ人選手

高崎中学に野球がもたらされたのは開校の翌年の明治31(1898)年で、瞬く間に盛んになり対外試合が行われるようになり、その勝敗が生徒の大きな関心事になった。当時対外試合は一種の戦争のようなもので、そのボルテージの高さは、当時の「對前中軍野球仕合復讐戰記」の表現にストレートに現れている。これほどの入れ込みようだから、応援団にとってはその勝敗は我々が抱く感懷とは大違いであり、勝負の後に罵倒しあい、石を投げ合って周辺に大迷惑をかけるようなことにもなった。時あたかも日露戦争真最中であり、この事態に校長達は「時節柄」こうした不祥事の因となる野球の対外試合は自粛すべしとの方針を決定した。以後校内大会は行われたものの盛り上がりに欠け、時とともに廃れて校内でも行われなくなってしまった。

一方県外では野球熱は益々盛んになり、大正4(1915)年全国中等学校優勝野球大会(現全国高等学校野球選手権大会)が始まるまでになったが、群馬県では対外試合自粛が続いている間に参加できなかった。ようやく群馬県から参加するのは9年の前橋中学で、高崎中学では一関中学から赴任してきた中村孝一先生の奔走により、ようやく11年になって野球部が復活した。後れを取った高中が前中に追いつくために打った手が先進校からの「助っ人」である。それは中村先生が一関から呼んだKと地元有力者の伝手で関東の強豪龍ヶ崎中学(茨城)から呼んだFとSであり、彼らを中心としたチームを早稲田大学の飛田忠順(後の穗洲=

アマチュア野球の教祖的存在)監督の指導で強化を図った。この3人は投攻守に優れたユーティリティープレイヤーで、彼らの活躍により高中は瞬く間に強豪校となり、12年から関東大会に出場し、13年には優勝候補といわれた千葉師範を破り準々決勝に進出、14年には関東大会の優勝候補筆頭にあげられるまでになった。しかし、2回戦全ぐ格下の対宇都宮実業戦で、9回2死無走者から右翼手のエラー、インタフェア、また右翼手のエラーとミスの連続で、まさかの逆転負けを喫してしまった。

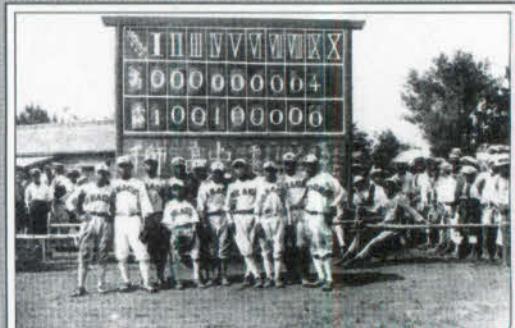
期待を裏切って無様に負けた野球部には罵詈雑言が浴びせられ、特に助っ人選手の操行に問題ありとする情報が乱れ飛び、ついにFとSは5年生1学期終了で学校を去ることになった。Kは本校に残り卒業後歯科医師となり、本校の学校歯科医として昭和18(1943)まで貢献したが、その後まもなく逝去された。

追われる様に本校を去った二人だが、Fは山形中学を経て早稲田大学に進み野球を続け、その出身校を高崎中学としており、不本意なかたちで本校を去りながらも本校への思いは持ち続けていたことが分かる。Sについてはその後の消息は分からなかったが、初めて甲子園出場に沸く京浜同窓会の一隅にひっそりと出席されており、私の手をそっと握って祝意を表した後、誰にも知らせぬまま去って行った姿が忘れられない。

(編集委員 田端 穂)

経過表			前中軍			高中軍		
回数	高	中	Seaf	Name	Runs	Seaf	Name	Runs
1	3	6	L. _E	加藤	0	3B	山田	2
2	2	0	P	廣瀬	1	2B	斎井	5
3	3	1	C	武	2	L. _E	高野	2
4	2	1	2B	池田	2	P	嶋田	0
5	2	0	3B	中野	1	S,S	猿瀬	1
6	0	0	C,E	岡田	2	C	松田	1
7	1	0	R,F	辻	1	1B	山川	1
8	0	2	1B	櫻井	1	R,F	龍川	0
9	-	0	S,S	佐々木	0	C,F	堀田	1
合計			Total	10		Total	13+a	

對前中軍野球
仕合復讐戰記



大正13年、強豪千葉師範に勝つ

▲第53回選抜高校野球大会 初出場記念誌「長き思い」より

◀『群馬』自第一號至第十號より

ご挨拶

高崎高等学校同窓会長(69期)

阿久澤 茂

1月の総会において、同窓会長を拝命しました69期の阿久澤と申します。平素より皆様には、同窓会及び母校の活動に対し多大なご支援を賜り心より感謝申し上げます。120余年の歴史と伝統を誇り、卒業生も3万人を超える県下有数の高高の同窓会ですので、まさに身の引き締まる思いです。同窓生の交流が世代や地域を越えてこれまで以上に深まるとともに、現役学生諸君や学校にたいしてさらに貢献できるよう、翠巒育英会、翠巒体育会、教育後援会、PTAなどの関係団体と連携をとりながら務めてまいる所存です。どうかよろしくお願ひいたします。

さて、先日茨城県立竜ヶ崎第一高等学校同窓会の会長さんと役員の方々が高高同窓会の活発な活動を参考にしたいと、同窓会事務局をお訪ねになり、組織や運営方法などについてお話をしたのです

が、特に关心を持たれたのが1月の同窓会総会・懇親会でした。これほど多くの卒業生が一堂に会することは聞いたことがない驚いていました。これも先輩方が努力して築いてくれたノウハウを次の代から次の代へと丁寧に伝承すると同時に、当番期の方々が時代の流れに合わせて様々なアレンジを加えながら受け継いできたからだと思います。この先世の中の変化は一層加速し、人々の価値観もさらに多様化していくでしょうが、この総会・懇親会は同窓生の団結の証であり、同窓会活動の原動力であることは間違ひありません。この良き伝統が絶えることなく、これから先も引き継がれていくことを心から願います。

今後当番期を迎える皆さんにはこの思いをしっかりと受け止めていただくとともに、先輩方には彼らに対する温かいご指導をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。



高崎高等学校校長(78期)

加藤 聰

本校校長3年目を迎えました。常日頃から、同窓会員の皆様には、様々な場面で本校の教育を支えていただいていることに感謝を申し上げます。

さて、去る8月20日に、昨年度に引き続き、高崎高校・前橋高校合同小学生(5・6年生)・保護者対象説明会を開催しました。

この説明会は、両校の将来を見据えて、早い時期から、公立高校、特に男子進学校への入学を訴えかけたいという思いから始めたものでした。

当日は、約800人(約400組)の親子が参加し、司会・運営を生徒主体で実施しました。今年度は、高崎高校と前橋高校をすすめる理由として特に次の3点に力点を置きました。

(1) 素晴らしい仲間と充実した学校生活を送ることができる。

(2) 勉強も部活動でも大いに実績を上げることができる。

(3) 総合的な人間力が身につき、将来社会で活躍できる。

事後のアンケートを見ると、おかげさまで大好評で、われわれの思いが伝わったという実感を強く持ちました。

今後も、両校が切磋琢磨をしながら、群馬県の高校教育を牽引していきたいと強く感じた次第です。

同窓生の皆様にも本説明会の趣旨をご理解いただいた上で、今後とも本校の教育活動へのご理解とご支援をお願い申し上げ、ご挨拶と致します。

潮流

56期

ラグビーワールドカップ2019組織委員 記者発表会見

信頼こそ 成功への道

真下 昇

公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会顧問



左から森喜朗会長、御手洗富士夫顧問、真下招致委員会委員長

私は7人兄弟の5番目、3男として生まれた。1945年3月10日の東京大空襲で焼け出され、生き地獄のような夜を過ごし、窓に人が鈴なり状態の超満員列車で父の実家がある倉賀野町まで逃げた。家族全員が無事だったのは奇跡だ。

同年4月、倉賀野町立尋常小学校1年生に入学した。最初は「疎開っ子」といじめられたがすぐに溶け込み、のどかな子供時代を過ごした。

めでたく高崎高校に入学し、野球部に入部しようとしたら中学の先輩が立ちはだかり、ラグビー部に入れられてしまった。

「ラグビー?」と思う暇もなく、汗臭いジャージを着せられ、運動靴で毎日毎日走らされ、ぶつかり合うことになった。だが、不思議と楽しく、もっとやりたいと思った。高校3年間、ラグビーに明け暮れ、実力あるチームで良い成績を残せた。

3年の冬からの猛勉強で運よく東京教育大学に合格し、再びラグビー部に入った。ケガが多く、満足いく選手生活ではなかったが、それでも様々な経験ができ、あっという間の4年間だった。

就職活動は「ラグビーを続けたい」との思いから一般企業に絞り、先輩の紹介で三井精機（社会人リーグ1部）に決まった。しかし監督から「伊勢丹デパートが新しくラグビー部を作るからいかないか?」と言われ、単純に「新しいチームを作り上げるのも面白そうだ」と思い、三井精機は同輩に譲った。

ところが、伊勢丹を受験すると、なぜか一緒に受けた他大学の学生も含めて皆不合格になってしまい、就活が振り出しに戻る最悪の事態になった。

そんな時、幸運なことに私の就職先が決まっていないことを聞きつけた英国の商社ドッドウエル商会（当時関東社会人リーグ1部）から誘いが来た。

外資系なので当然、コミュニケーションも書類もすべて英語



東京教育大学レギュラーメンバー(後列左から5番目が真下氏)

だったが、日本だけでなく世界を相手に商売をする会社に魅力を感じ、無知の強みで特に不安もなく入社した。

ラグビーの本場、英国でプレーしていた英国人社員もいた。フレンドリーな雰囲気の社風に面食らうこともあったが、苦手な英会話を叩き込まれ、毎日が発見と挑戦の連続で楽しくというのがなかった。

配属先の定期船部営業課は諸々の顧客メーカーの品物を輸出品として船に載せ、日本各地の港から世界へ運ぶ集荷業務が主だった。常に顧客との信頼関係を作る努力をしていた。



ドッドウエル商会営業課長時代

仕事上の様々なアクシデントを通じ、相手が困っている時にできる限りの協力をする事が、反対にこちらが窮地にいる時に助けてくれるという、友好的な関係の構築につながる事を学んだ。円滑に問題を解決する判断力を養うには、常に情報を共有し、相手と目線を同じくする事が必要だということも教えられた。

当時は全国的に労働者の賃上げ闘争が盛んで、全海連外労協に属していたドッドウエル商会も度々ストライキが起きていた。だが、ストライキを打てば給料は幾ばくか上がるかもしれないが、顧客には多大な迷惑をかける。顧客ファーストで仕事をする我々のような営業マンには悩みの種だった。

丸の内に赤旗がなびくのを眺めながら方策を考えていると、「自分が組合執行部に入って指揮を執る側になれば」とひらめいた。すぐさま行動に移し、次の年には執行委員長になってしまった。

そして気心の知れた会社側幹部の英国人支配人に「紳士協定としてストライキはしない。すべてを平和裏に運ぼうではないか」と持ち掛けた。

委員長は一年ごとに交代するのが常だったが、私は、会社側の要請で2年引き受け、ストをせずにじっくりと向き合った。

英国本社はそれまで毎年ストライキが行われる日本のマネー

ジメントに懐疑的だったが、このストなしの2年間を高く評価してくれた。

だから2年目のボーナス闘争では、組合員全体の声をくみ上げてかなり強引な要求をしたのに、驚くべきことに支配人から「今年は業績が良いのでボーナス要求を（もっと高い金額に）見直せ」と言われた。

ピックリした私はガイドラインの数字を彼に確かめ、急遽職場大会を開き、再度要求を会社側に提示、思い通りの額で妥結することができた。

ラグビーの方は31歳で現役選手を退き、レフリーの道に入った。長年に渡る厳しい経験を経て日本ラグビー協会の主要試合、国際試合のレフリーを務めるようになった。1970年代は世の中の経済状態がますます、日本のラグビーが海外からチームを招いたり、海外に遠征することも多く、世界のラグビー関係者、レフリー同士の交流が親密になっていった。また、並行してラグビー協会の運営にも携わるようになっていた。

一方、会社の方に関しては「一度きりの人生、日本企業の組織で働く経験をしてみたい」という気持ちになっていた。声を掛けてもらった(株)クボタで53歳から営業職とラグビー部の世話をし、65歳（2003年）まで厚遇を得た。

ところで、当時の日本ラグビーの国際的地位はトップ20の下位にあり、強化に本腰を入れなければ世界から取り残されいくことは必至だった。私は2002年に日本ラグビー協会専務理事に選出され、この大変な時期の舵取り役を引き受けたことになった。

日本ラグビーの大改革のため、まず55年続いた全国社会人大会を発展的に解消し、強い者同士が闘うことで、共にプレー技術の向上を目指そうと新たに「トップリーグ」を立ち上げた。

同時にあるフォーラムで「近い将来、日本でアジア初のワールドカップを開催したい」という大きな夢を語り、W杯招致に向けた体制の準備を進めた。

日本代表についても外国人選手を積極的にチームに入れ、レベル向上の一助とすることを推奨し、強いチーム作りと人気回復を図った。

ラグビーW杯の招致活動は2004年から始め、世界を駆け巡って日本の大会開催能力、ラグビーのグローバル化に伴うアジア地域の大切さなどを訴えた。



第19回 日本選手権決勝(1981、昭和56) 新日鉄釜石〇30-明治大学X14 於:国立競技場

数えきれない程の紆余曲折はあったが、ドッドウエル時代に一筋縄ではいかない英国人たちと付き合った経験が多いに役に立った。

また、世界中のたくさんのレフリー仲間が情報を提供してくれたり、コネクションを作ってくれたりと日本開催のために力を貸してくれた。

アジアラグビー協会の人達も、役員改選で理事に立候補した私に協力を惜しまなかった。おかげで世界ラグビー機構（IRB）の理事会にアジア選出の理事として出席することができた。

初めて理事会に出ると、以前、日本への招致を説いて回った時はけんもほろろだった人たちの態度が豹変し、「Nobby,Nobby（私のニックネーム）」と歓迎してくれた。その後はみな良き協力者となり知恵を貸してくれた。

2011年大会のW杯説明はNZに敗れたが、諦めることなくあらゆる面から招致活動を進めた。その結果、IRB理事会は2009年7月28日、次期開催地に立候補していた南ア、イタリア、英国、日本を対象に投票を行い、2015年にイングランド、2019年に日本で開催すると決めた。この大きな夢が9月20日、いよいよ現実のものとなる。

こうしてみると、私の人生は自分で選んで始めたというより、否応なしにその場に置かれてしまったことがほとんどだ。だが、与えられたことに意欲を持ち、誠意ある行動を尽くすことが信頼関係と成功への道だと思う。

行動しなければ道は開けない。その経験の積み重ねが判断力を育てる。長い間には何度もくじけそうな場面があったが、高高ラグビー部で鍛えてもらった体力や精神力、その後の社会生活で経験した様々なことが役に立った。人生において無駄なことは一つもないと確信している。

21世紀のIT技術の進歩は目覚ましく、様々なコミュニケーションツールの登場で我々の生活は一変した。だが、私の人生を振り返ると、コミュニケーションの根幹は機器の優劣ではなく、人が持つ五感に基づく行動力と判断力にあると思う。真のコミュニケーションは便利な機器だけで繋がるものではなく、人間同士の信頼関係から生まれるものだ。



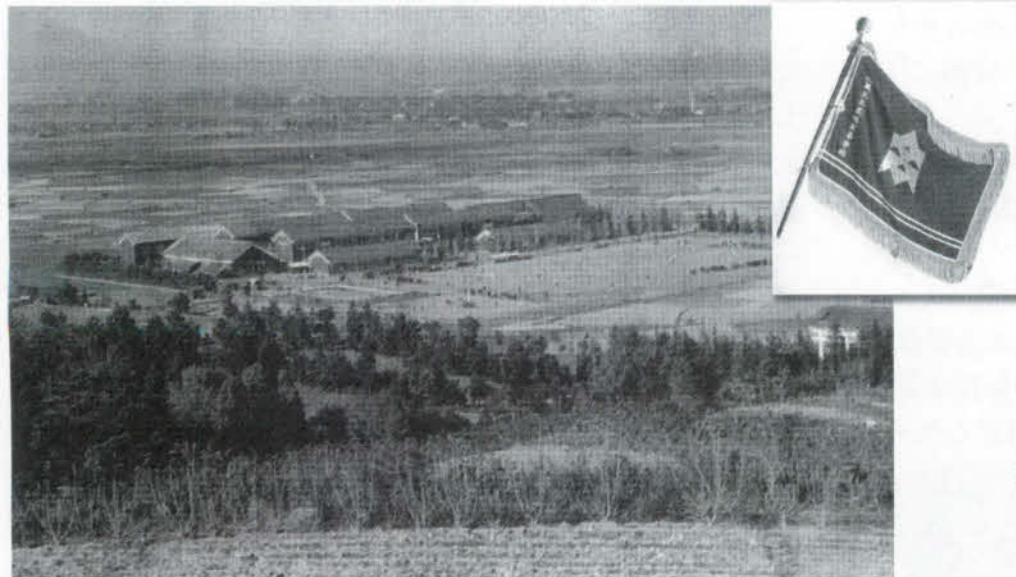
国際ラグビー評議会（IRB、現ワールドラグビー）
左からシド・ミラー会長、真下氏、
ビル・ボーモント副会長、ベルナール・ラバセ副会長（当時）

寄稿

50期



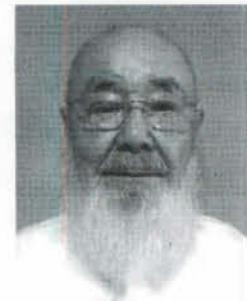
我等50期 『高高五〇会』



第3回高前定期戦(昭和25年11月9日)

元群馬県教育委員会委員長

丸山 恭一



大東亜戦争(太平洋戦争を当時はこう言った)が敗色濃厚の昭和20年(1945)4月、我々50期生は入学した。以降6年間激動の時代に揺られ、揉まれ、成長して行くことになる。戦時疎開生徒の編入増加、学制改革による義務教育課程終了での卒業生、新制高校への入学生、その他転入生があり、昭和26年(1951)3月の卒業生数は316名であった。

在校時の変革を下記しよう。

- 1 戦時体制の崩壊 戦争終結。新憲法発布。奉安殿の撤去。修身、剣道、柔道、軍事教練、日本史、地理の授業廃止。校歌(榛名の山の)を歌詞不適当で廃止。翠巒を校歌とする。
- 2 学校制度の変革 63制施行。新仮名遣い。漢字制限。帽章変更。学年別バッチ設定。
- 3 復活 中等(高等学校)学校野球大会。関西修学旅行。
- 4 新築 創立50周年記念の同窓会館兼図書館建造。防火用水池兼プール建設。
- 5 新発足 自治会。高前定期戦。全校マラソン実施。ラグビー部、蹴球部、応援部、等創設。

我々50期生にとって最大の痛恨事は、昭和26年(1951)1月30日の校舎火災であり、火は南校舎西半分、北校舎全棟、図書館、武道場を焼き尽くし鎮火した。鎮火後集まつた教職員、生徒を前にしての内藤由己男校長の復興に向けての力強い演説、続いての下田応援団長のリードで歌った『翠巒』を忘れること無く胸に抱き続けて3月の卒業式を迎えた。

在学中、卒業後も個々の、又は小グループでの交流は夫々行われてはいたが、同期合同での集まりは暫らく無かつた。合同のクラス会第一回は昭和37年(1962)、古関実君の実家信濃屋旅館で恩師を招いて開催された。これを皮切り

に、折々の合同クラス会だけでなく、地域的なミニクラス会も開かれるようになり、併せて有志によるゴルフコンペも行われる様になって行った。

何時からか、50期会の事務局を横田英一君経営の『群馬トヨタ自動車』に置き、会長も横田君に御願いした。その後平成6年(1994)に会の名称を『高高五〇会』(タカタカゴーマルカイ)と名付け、以降『五〇会』と呼ぶ様になる。

多くの同期生が顔を合せる機会が増えると、何時しか火事で焼失させた校旗を我々の手で作り、寄贈しようではないかとの声が高くなり、関係各位の了解を得て、現在の『セルリアンブルー』の校旗を昭和55年(1980)母校に寄贈することが出来た。

全学同窓会では、同窓生を一堂に会しての新年総会が立案され、その実行を50期が引き受けることになり、昭和56年(1981)2月、『第一回全学同窓会新年総会』を成功させた。この会の当番幹事を務める事により、同期の結束を拡張、強化することが出来、これが同窓会の継続、発展に貢献していると自負しており、校旗寄贈と共に我等50期生最高の誇りとなっている。

全学同窓会では横田英一君が平成10年(1998)から8年間会長を務め、国峯善次郎君は『翠巒体育会』の創設に尽力し、以降長くその会長を務めた。金井秀一君は母校出身初の校長として平成2年(1990)4月から3年間勤めた。

平成5年(1993)同期会誌を作ろうとの声がおこり、恩師23名、同期生85名の寄稿を得て同年11月『高高五十期あの日あの頃』を発刊した。

五〇会は毎年2月に新年総会を開いており、出欠回答に近況欄を設け、それを取り纏めた『流水長き思いあり』を発刊し、平成29年(2017)迄16号に及んだ。その後はプリントアウトして会員全員に配布している。現在会員63名である。

寄稿

60期



今、楽しんでいること

弁護士

富岡 桂三

この8月に77才になった。

元気なつもりではあるが、近頃は体力と思考能力の衰えを感じている。

この年になると、世間からどのように見られているかなどの気遣いもせずに、好きなことをのんびりやろうという気持によくたどりついたところである。

そんなわけで私の今の趣味は、カラオケとラグビー観戦と漫画である。

このうちラグビー観戦は高校ラグビーではなく、メイジの試合の観戦である。東京、菅平、大阪まで見に行く。もっともここは高高的同窓会誌なので、この話は止めにしよう。

漫画は諸兄の興味に合わないと思われるので、これもやめ、もう一つの趣味のカラオケの話をしたい。

私がカラオケと言っているのは街中のスナックでママさんと一緒に歌うといった類のものではなく、カラオケボックスで歌うものだ。

数年前にカラオケボックスに行ってみて気に入り、それからは一人で度々行っていた。高崎にはカラオケボックスは沢山ある。その一つを利用していたが、知った顔には会わなかった。

その後、税理士をしている兄にカラオケボックスの話をしたら興味を持ったので、連れて行ったら彼も大いに気に入った。

それからは兄の友人も参加するようになり、いつも数人で行き、大いに盛り上がる。もっとも参加する人全員が70代80代であり、歌も、専ら戦後から昭和の終わりの頃までの曲になる。現役の歌手の歌を歌う時でも、我々が歌う曲は昭和の時代に歌われた曲であり、参加者は酒を飲みながら、一緒に歌ったりする。

女性は全く参加しない。

これは参加者に魅力がないためであるが、仕方のないことである。

私は1度カラオケに孫を連れて行ったことがあるが、小学校にあがる前後の子ども達なのに、マイクをしっかりとぎり、私の全く知らない歌をすいすい歌っている。アニメに出てくる歌に違いないが、私の知らないものだ。

我々の歌う歌は、子どもや若い女性が歌う歌とは次元の違う世界のものなのである。

そんな歌を酒を飲みながら歌うのである。

何度もカラオケで歌っていると、はじめの頃よりも高い声が出るようになるし、身体の調子も良くなる。大きな声で好きな歌を恥ずかしげもなく歌えることは、良いことなのだ。

そして、我々の次のたのしみは、二時間近くカラオケで歌った後、タクシーで街中の居酒屋に繰り出し本格的に飲み、かつしゃべることである。

しゃべっている内容は政治の話は抜きにして、その他のいろいろにわたり、活発に話をし、飲むのである。

しかし、この原稿を書いているとき、一体何を話していたのかは、自分自身すぐには思い起こせない。

というのは、大して重要なことではないことを熱心にしゃべっているからなのである。

でも我々高齢者が口元に泡をつけてしゃべっているのであるから、当人達にとっては重要で、気分も充実するものに違いない。

そして議論している相手も同じように高揚した気分で議論しているのだから、話の中身のレベルはともかく、気持に張りが出て、健康にも良いことになる。

そんなわけで、お呼びがくる時も近くなったこの頃を、今の憲法のありがたさを噛みしめ、歌と酒とともに過ごしているところである。

寄稿

70期



令和改元と 上野三碑・東歌

高崎商科大学特任教授・群馬テレビアドバイザー

熊倉 浩靖

令和改元で元号(年号)が話題になっていますが、元号は、中華王朝で生まれました。最初の元号は、前漢・武帝の、その名も「建元」。西暦前140年のことです。

天から全世界の統治を委任された唯一無二の存在である中華皇帝は、空間だけでなく時間の支配も託されたという考え方から生まれたものです。したがって、中華冊封(さくほう)体制のもとにある諸国は、中華王朝の定める元号を使わざるをえませんでした。これを「正朔を奉ずる」と言います。現に中華王朝に接していた新羅(シリラ)・高麗(コリヨ)・朝鮮(チヨソン)などの韓半島の諸王朝は中華王朝の元号を使用し続けました。

それに対して、日本は、日本という国号が大唐帝国(厳密に言えば周)に認められた時、独自の元号も認められ、以後今日まで使い続けています。『新唐書』は記しています。

「長安元(701)年、その王文武(もんむ)立ち、改元して太宝と言ふ。」

文武天皇の即位年や元号表記には誤りがありますが、異例中の異例です。独自元号の許容は、中華王朝が、日本を完全な独立国として認めたことを意味します。

国際的に認められた最初の元号が大宝です。大宝元年は西暦701年に当ります。

大宝以前に、大化、白雉、朱鳥(あかみどり)の元号が使われたと『日本書紀』は記していますが、確実な金石文、木簡、他の資料では確認できません(「宇治橋断碑」に「大化二年」とあると言われますが現存部分にはありません。証拠とするには不十分です)。それ以前は干支で年を示しています。

その変化を端的に示す存在こそ上野三碑(こうづけさんび)です。大宝前の山上(やまのうえ)碑(高崎市山名町山神谷(やまがみだに))は「辛巳歳(かのとみのとし)(681年)」と記し、大宝後の多胡(たご)碑(高崎市吉井町池)は「和銅四年(711年)」、金井沢(かないざわ)碑(高崎市山名町金井沢)は「神龜(じんき)三年(726年)」と記しています。実は多胡碑は、元号が記された現存最古の石碑です。

2017年ユネスコ世界の記憶に登録された上野三碑は、日本における元号の歴史を語る最も古い生き証人でもあります。

令和改元の典拠が『万葉集』巻五の815番から846番の歌に付けられた序文「天平二(730)年正月十三日、(大宰)帥(そち)の老(おきな)の宅に萃(あつま)り宴会を申(ひら)く也。時に初春令月、氣淑(よ)く風和(わ)ぎ」であることも注目を集めていますが、同時代、信濃以東・遠江以東で歌われた歌は東歌と呼ばれて巻十四に収録されています。全部で230首ありますが、どの国のか歌か確定できたものは90首。うち25首が上毛野国(かみつけののくに)(今日の群馬県)の歌でした。国別では最多ですが、特に多いのは「伊香保(いかほ)」を詠んだ歌です。

伊香保は「恐ろしい山」を意味しました。万葉の時代を溯ること2世紀ほど前、半世紀にわたって榛名は大噴火を繰り返しました。そのことを語り伝える言葉が伊香保でした。

しかし大噴火は恵みもたらしました。また、人々は最後の大噴火から半世紀も経たないうちに噴火がもたらした石で古墳の石室を築いています。伊香保は、私たちが暮す大地、私たちを育んだ風土そのものになりました。わが翠巒はじめ校歌もクラス会の歌も秀麗榛名をその核心としていることは示唆的です。

山上碑から金井沢碑に至る山道は「首都圏遊歩道」の一環として整備されています。信澤工業の二代目・信澤克己さんとその遺志を引き継いだ人々によって『万葉集』東歌を中心とする歌碑が五十基ほど建てられ、「石碑(いしぶみ)の路(みち)」と名づけられています。

「石碑の路」は、元号が定着していなかった山上碑から、元号が定着・普及した金井沢碑に至る道です。その道は、日本という国家が生きていく瞬間を実感させてくれるタイムトンネルもあります。「石碑の路」に立つ東歌、分けても伊香保の歌を味わいつつ、温故知新をかみしめたいのです。

寄稿

80期



おもいで

独立行政法人国立病院機構外科系診療部長
医療情報部長

笹口 修男

当たり前かもしれないが高校時代にもいろいろと出来事があった。その中の一つ。

すでに40年近くたつので、さすがに季節は正確にはいつだったか忘れてしまったが、春だったように思う。高校のとき、将棋部に所属していた。活動といえば、放課後に部室で皆で将棋を指したり、詰め将棋に取り組んだりするのが常であった。

ある日の話である。いつものように部室で他の部員達と一緒にいたところ、どういうわけか工事のおじさん風の人が入ってきた。どこか誰かもわからない人だった。

当時の部室は今と違って、たしか3階建てだったと思うが、部室棟があって、その最上階の一番奥であった。普通に考えると、部室の場所としてはわかりにくく、どうして入ってきたのかは今もわからない。窓もドアも開け放しだったので将棋を指している音が階下にいて、聞こえたのかもしれない。

おじさんは将棋好きだったので、空いていた部員と、自分で持ってきた空き缶を灰皿にして、たばこをふかしつつ、将棋を指した。何番指したかは覚えていないが、満足したおじさんはその後、たばこの残り香をのこして、帰っていった。空き缶は持ち帰られるのを忘れられていた。

そのあとはいつもと変わらない風景がもどり、静かに時間がすぎていた。

しばらくして顧問の先生が部室に現れた。これも普段の風景のひとこまだった。しかし、少しすると、先生は机の上に放置された空き缶に注目された。空き缶の中には当然のことながら、たばこのすいがらがはいっていた。

まずい状況であることは明白だった。たばこをすっていたのは自分たちではなく、さっきまでいたどこかの工事のおじさん風の人だが、すでにおじさんはいない。どこにいったかもわからぬ。

「おじさん、なんでだよ。」と皆が考えたと思う。

先生は空き缶をさし、「これは」と指摘された。一瞬、沈黙が

周囲を支配した。

そのあと、誰かが「さっき、工事のおじさんが将棋を指しに来たんですが、その時、おじさんが吸っていました。」と答えた。そうすると先生は、「そうか」と言い、その後「空き缶をかたづけておいて」と付け加えて、部室から去っていった。先生が去ったあと、皆で「よかった」など安心の言葉が交わされた。また「あのおじさんは何だったんだろう」とかの話もでたが、あまり長くはつづかず、日々の風景にもどった。その後はなにも起こらなかった。

今思うと、顧問の先生は部室に入ってきたときに残っていたたばこのにおいにすぐに気づいて、机の上の灰皿代わりの空き缶を見つけたのだと思う。無防備な状態の空き缶。

それに対する生徒の態度、返答の仕方で既にいない工事のおじさんの話をすぐに了解してくれたものだろう。しかし、それ以上に、根底には普段の信頼関係があったと思う。当時の高校の生活ではきつい規則で縛られることもなかった。しかし、それほど羽目を外すものもありしなかった。すこし、例えとしてちがうかもしれないが、老子にある“大道廢れて仁義あり”的道が廢れていない状況だったと思う。

自分の子供たちも高高を卒業して数年たっているので、最近のことはよくわからないが、職場の関係で和田橋を自転車で渡っていく後輩達の姿を、仕事の行き帰りによく見かける。朝も7時という、自分たちの頃には考え難い早い時間に学校に向かう姿には感心する。また、和田橋の歩道いっぱいに自転車が広がっていくこともなく、マナーも自分たちの頃より向上していると思う。(昭和の頃は和田橋の歩道は3列になって自転車で走ってくる高高生に占拠されていた)。また、用事で高高にいくと、あいさつもきちんとしてくれ、礼儀もわきまえていると思う。

世の中の全体の流れかもしれないが、礼儀正しい若者が増えている反面、“大道”が廢れていないことにも期待する。

◆◆掲示板◆◆

同期の皆様へ

49期 高橋 一夫 Tel.027-362-9043

我が49期は、例年どおり7月第1土曜日に同窓会を開催しました。米寿記念、遠く他県からの参加者を含め、21名が出席しました。多数決で、再来年の卒寿記念まで開催することが決まりました。49期に幸あれ!

50期 八木 資親 Tel.027-322-4427

高崎市鶴見町14-5

卒業後間もなく70年。316名の仲間がいた。幹事会が承知している物故者は143名、消息不明者は30名余。しかし、未だに高崎と東京で、3月と6月に同期会を開催している。健在の仲間との再開を切望している。

54期 田端 穂

54期では、同期の作品を披露する「五四会作品展」を平成22年より9年続けて開催してきましたが、加齢による通院、入院、意欲減退等により作品が集まらず、第9回をもって終了することになりました。同窓生の皆さんこれまでのご支援に深謝いたします。

55期 安藤 震太郎 Tel.090-4930-5161

満80歳を機に定期的な懇談会を終了していましたが、仲間の岡田理君が昭和36年信越化学に入社以来58年間勤務し、監査役を最後に退職したのを記念し、仲間12人が集まり久しぶりに7月20日歓談の時間を過ごしました。

56期 立見 壽士 Tel.090-3148-8373

56会の皆さんお元気ですか?80歳は人生の折り返し点と捉え、2020年1月25日開催予定の同窓会はより楽しい集いとなることを願い、体調維持を心掛けましょう。折に触れお声掛けし合いませんか。

57期 山口 保男 山口歯科醫院

大学を卒業し役職につく頃から同窓会を始めました。何年に一度位の間隔です。最近は全体の同窓会の場所が変わり、同日に合わせて行っております。毎年40~50人集まります。何年続くか楽しみです。

58期 阿部 國和 Tel.027-322-0756

58期同期会は出席者が年と共に減少して、近年では30名程度になってしまいました。

令和2年度には同期生も80歳を迎えますので、これを機に同年5月に開催予定の同期会を最終回とする事になりました。

61期 友松 敬三 Tel.090-3064-8786

今年来年で、76才・77才に成りますが、幾つになったら一泊旅行をやめようかと、相談しています。年末の忘年会(12月30日)は、欠かさずですが、もう余り飲めなくなった今日この頃です。みんな元気で年をとりたい。

63期 羽鳥 修司 Tel.090-8683-0323

63期では毎月魚仲にて懇親会を開催しております。例年12月には全体忘年会を開催しています。案内を送りますが同窓会報にて気が付かれた方は、表記に連絡下さい。令和元年は12月7日(土)午後5時を予定しております。

67期 仙田 健一

67期の皆さんお元気ですか。わが期は、毎年1月の新年総会後の二次会でミニ同窓会を開催しております。是非お出かけ下さい。

71期 坂本 正樹

spa.ghetti-you@etude.ocn.ne 佐々木
原則毎月第3土曜日の18時から井野駅前のオリーブに集まっています。また小旅行の実施や高高バラ園の整備も中心として行っています。同期の輪を広げましょう。

76期 須郷 弘 Tel.090-3149-7299

76期は還暦を昨年に迎え、気持ち新たに人生6合目をスタートしました。人生8合目からが面白いと聞きましたが、そろそろその準備でも…。来年2020年は五輪年にて76会開催します。楽しみです。

メッセージ

◆各期代表幹事◆

77期 松本 基志 Tel.090-1604-4689

77期の皆さん、還暦を迎えたが、お元気ですか。来年は、東京オリンピックが開催されます。ということで、4年に一度の77期の同窓会開催の年です。皆さんにお会いできる事を楽しみにしています。

78期 高橋 浩生 Tel.027-363-6303

toorih.e15-0108@dream.com Tel.090-3246-5547

現メーリングリストサービス終了と還暦直近が重なったので(多分)最後となる名簿整理を行います。携帯電話番号とメールアドレス中心です。ご協力をよろしくお願ひいたします。追伸、加藤校長がんばってますよ!

80期 笹口 修男

mssasaguchi@ms.dion.ne.jp

昔は明治生まれの人はすごく年上と思ってました。これからは令和生まれの人にそう思われるんですね。人生100年などと寝言言っている人が最近いますけど、そんなにないと思うので、新年同窓会で語り合いましょう。

81期 岩井 均 Tel.027-393-5447

同窓会幹事期以降、毎年、新年総会懇親会後に同窓会を開いています。多くの皆さんに参加してもらえることを願っています。50歳代半ばを迎え、還暦が迫っていますので、お互い健康管理に十分留意しましょう。

82期 野口 俊康

yasunog-gun@umin.ac.jp

去る5月26日同窓会ゴルフ大会に参加して頂いた同窓の皆様、そして幹事として働いて頂いた82期の皆様、どうもありがとうございました。熱中症が懸念されましたが無事に終了出来たのも、皆様のおかげです。

87期 静 和彦 shizukak@sea.plala.or.jp

みなさん、こんにちは。新年会総会の当番期は終わりましたが、引き続き年に数回、飲み会やゴルフコンペを行っています。みなさんの参加を楽しみにしております。また、来年の新年会総会でお会いしましょう。

88期 亀田 慎也 Tel.090-3683-8931

1月の同窓会新年総会・懇親会幹事の大役、大変お疲れ様でした。同期も120名の参加をいただき盛大に行うことができました。皆さんのご尽力に感謝いたします。また来年1月も元気に笑顔でお会いしましょう!

89期 井上 幸己

第118回新年総会は1/25(土)開催です。我々89期は午前10時ホワイトイン集合となりますので、多くの参加をお願いします。卒業して30年、当番期をきっかけにあらためて同期の絆を深めてまいりましょう!

94期 広瀬 一成 Tel.080-5471-5207

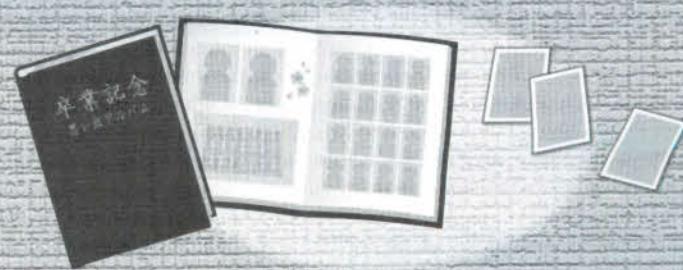
Face bookで94期はつながっています。ぜひ、「県立高崎高等学校94期」を検索して下さい!

103期 根岸 彰 akira@hardwareshop.jp

毎年、全体同窓会の後に同期会をやっています。ご興味ある方、是非ご連絡下さい。

通信制 山本 好一 Tel.090-2543-3014

令和元年度高崎高校通信制同窓会定期総会を、令和2年2月23日、午後3時半からの開催で予定しています。総会後、懇親会を予定しています。多くの会員の参加をお願いします。





ニュージーランドで講演する筆者

私の仕事

88期

行列のできる和菓子店 日本の文化を世界に発信

みしょうあん
御菓子司 微笑庵社長

宮澤 啓

高崎駅から車で20分。桃や梨の果樹園が広がる草津街道の剣崎町に微笑庵はあります。お世辞にも良い立地とは言えず、駐車場も狭い小さな和菓子店ですが、信じられないような行列ができ、話題になっています。看板商品の「ちごもち」は、行列に並ばないと買えない程の人気商品で、多い日には1日3,000個を完売し、累計販売個数は220万個を超えるました。

2016年は人気テレビ番組「嵐にしやがれ」で紹介され、2017年は全国菓子大博覧会・三重で、2,175品の菓子の中から最高賞を受賞しました。

微笑庵では、菓子作りと同じくらい、和菓子作りの講師の仕事も大切にしています。

2012年、日本とニュージーランドが国交60周年を迎えた記念の年に、日本文化を紹介するイベントから招待を受け、同国に初めて和菓子を紹介しました。2018年に2度目の招待を受けるほど、反響は熱狂的なものでした。

高崎市の魅力を内外に発信するシティープロモーション事業でも、故郷のフルーツを銘菓にする取組みや、海外での講演活動をご評価いただき、東京やシンガポールで、和菓子を通して高崎の魅力をPRする仕事もさせて頂きました。

講師の依頼は次々に舞込み、保育園から大学に至るまで、定期的に和菓子の魅力を伝える活動を続けてきました。このことから、厚生労働省が推進する「ものづくりマイスター」に群馬県第一号として認定されました。

みやざわ製菓とは

微笑庵の前身「みやざわ製菓」は、昭和4年に祖父・伊三郎が創業。冠婚葬祭の饅頭や砂糖菓子を中心に生活必需品を何でも扱うコンビニのようなお店として始まりました。

父・軍司郎は、高度経済成長期に人々の生活が豊かになる中、駅売店の手土産を開発することで、飛躍的に売

上をのばしました。「ベンツで配達する和菓子屋」の異名をとるほど、父は成功し、自信に満ち溢っていました。

和菓子の修行へ

大学を出て就職先を探す中、月3万程度の給料なのに、全国から弟子入り志願者が集まり、希望したからと言って働かせてもらえない店がある、という噂を耳にします。菓匠京山さんです。

不器用なのでこの道で人の役に立てる自信がないと打ち明けると、「菓子職人として大成するのに、器用・不器用は全く関係がない。君がヤル気があるかどうかだ。」と断言されました。

この一言に稻妻に打たれたように感動し、頼み込んで弟子にして頂きました。饅頭一つまともに作れない私を、ピンポン玉を回すところから徹底的に鍛えて下さいました。

機械化が進む世の中に逆行するかのように、手仕事が息づく京山の菓子作り。なかでも「和菓子作りで最も大切なのは餡焼き。包まれて目立たぬ餡にこそ魂を込めなさい」という教えに感動しました。

餡が命！ 餡に賭けるが…

3年間の住込み修行を終えて実家に帰り、本格的に家庭に従事して驚きました。店の業績が年々下がっているのです。今までと同じやり方を繰り返していくはジリ貧です。

私がもっとも自信をもっていたのは京山で習得した絶品の「餡」です。美味しい餡を食べて頂くことで故郷のお役に立ちたいと、当時、製餡所の餡を買っていたのを止め、自分で餡を焼き始めました。

手間暇かけて、原価を上げてまで餡に賭けましたが、売上は現状維持が精一杯。少しもお客様の心に届いた実感が持てません。私は焦りと不安に押しつぶされそうになっていました。

出会いが人生を変える

おそらく人生で一番自信を失っていたこの時期に、大学の後輩だった妻が仙台から嫁いでくれました。今の微笑庵じゃありません。「上州の田舎っぺ」が看板商品の家族だけの和菓子屋です。どんなに嬉しく、心強かったか。いくら感謝しても、し尽せません。

その妻から、コンテストにでるとか、もっと自分の仕事を外に発信することを勧められます。自分らしさを爆発させて、それでもダメなら転職でも何でも考えたら良いと。

群馬県の物産をブランドにする事業に応募し、5人の審査員を前に、私は自分の経験や、菓子に対する情熱をぶつけました。

その時の審査委員長こそ、歴史的大ブーム「ダッコちゃん」を手掛けた、大木紀元先生でした。

拈華微笑の世界観への挑戦

審査会場でのアドバイスに心を打たれた私は、その場で言い尽くせなかつた想いを手紙に託しました。

手紙のお礼にと頂いた原寸大のパッケージ・デザイン。そこに「微笑庵」が登場します。

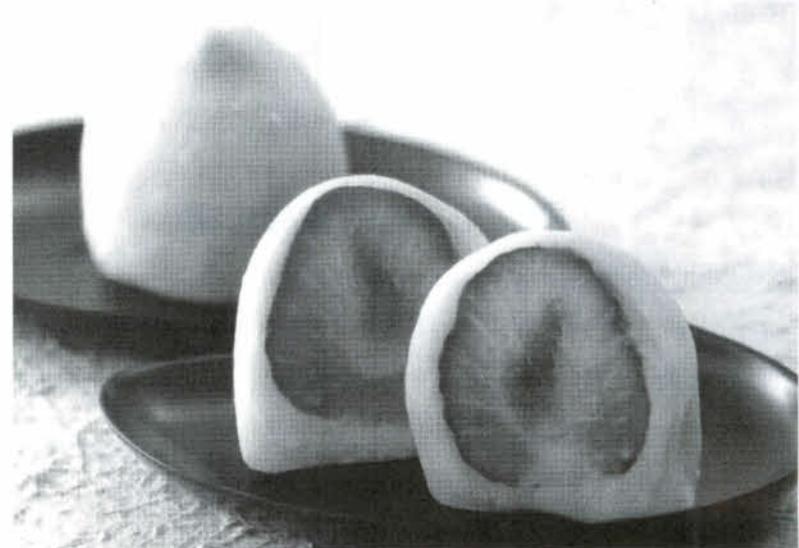
「禅宗の逸話『拈華微笑』は以心伝心の意味です。説明しなくとも心から心に良さが伝わる。あなたはそんなお菓子を作りたいのでは？」

私の心の中に形にならず悶々としていたものを、先生は掬い上げ形にしてくださいました。2002年、こうして微笑庵は生まれました。

和菓子を世界へ

2018年、ニュージーランドから2度目の招待を受けました。和菓子の講演やワークを開催した場所は、同国の戦没者を慰霊する博物館でした。かつて交戦国だった日本の文化を、そんな場所で開催できるのは、多くの偏見や差別を越えて同国のために尽くした方々の献身的な生き方が信用を得たからに他なりません。

日本政府と英国女王から叙勲を受けた主催者ご夫妻の信念は、「いち庶民でも志ひとつで文化大使になれる」ということです。私と、同行した高2の長女は、同会から「草の根の文化大使」と任命して頂きました。これからも、和菓子を通して日本の技と心を、故郷へ、世界へ、伝え続けて参ります。



菓子博覧会で名誉総裁賞受賞の「ちごもち」

和菓子ルネッサンス宣言

私の人生観を変えた和菓子屋の古絵図があります。製菓機械がない時代、餅は杵と臼で作っています。蒸籠がうず高く積みあがり、大量の饅頭が蒸されています。保存料のない時代、餅や饅頭はすぐに固くなつたはず。にもかかわらず、凄い勢いで菓子を作っています。ということは、固くなる前にどんどん売れて、美味しいうちに食べきっていたに違ひありません。

江戸の和菓子の方が、大量に作って物流させる現代の菓子より美味しいのではないか？

早起き、手仕事の粋な職人文化を、今生きる人々に共感頂けるスタイルで提供したい。

私はこの志を「和菓子ルネッサンス宣言」と名付け、7つの行動指針を定めました。

「ちごもち」へのご支持を単なるブームで終わらせることなく、先人からの職人文化を未来へつなぐ架け橋になりたいと願っています。



微笑庵 高崎市剣崎町 TEL:027-343-3026
営業時間:9時~17時(売り切れ次第閉店)
水曜日定休

◆◆ 公益財団法人「翠巒育英会」◆◆

PR

事業目的

(基本方針)

社会に有為な人材育成を図るため、群馬県立高崎高等学校に在籍する生徒に対し、奨学金給付事業などの教育奨励事業を行う。

(事業内容)

基本方針を踏まえ、3点の教育奨励事業を行う。

1 奨学金給付

経済的困難かつ学業優良な生徒に対して、公募によって申請のあった者に、必要資金の全部又は一部を助成

2 学校教育補助

学習活動、部活動など生徒の教育活動の中から、質の高い推奨すべき活動を行い、全国大会へ出場する者に対して、必要資金の全部又は一部を助成

3 教育環境整備補助

学習活動、部活動など生徒の教育活動の中から、質の高い推奨すべき環境整備を選考し、必要資金の全部又は一部を助成

平成30年度事業報告書

平成30年 4月16日	第1回 理事会・評議員会 【平成29年度事業報告・決算報告、平成30年度事業計画・収支予算、平成30年度理事・監事の選任等】 第1回 評議員会 【平成29年度事業報告・決算報告、平成30年度事業計画・収支予算、平成30年度理事・監事の選任等】
5月24日	第2回 理事会【平成30年度理事・監事の選任】 第2回 評議員会【平成30年度理事・監事の選任】
5月24日	第1期分奨学金交付(3年4名、2年生4名)
7月 2日	平成30年度奨学生採用選考会(申請者6名・採用3名)
7月17日	奨学生採用通知書伝達式(1年3名)
7月17日	第1期分奨学金交付(平成30年度採用1年3名)
8月24日	第2期分奨学金交付(11名)
12月17日	第3期分奨学金交付(11名)
平成31年 1月26日	感謝状贈呈(ホワイトイン高崎) 【敬称略】小池脩夫(57期)、串田紀之(67期)、81期同窓会ゴルフ大会幹事、88期同窓会新年総会幹事
3月22日	第3回 評議員会 【平成30年度事業経過・予算案について】
3月28日	第3回理事会 【平成31年度事業計画・予算案・資金調達・設備投資について】

平成30年度決算書

		(単位・円)
■収入		
正味財産(基金)運用益	4,657	
寄付金	2,070,501	
雑収入	12	
合計	2,075,170	
■支出		
事務費 奨学金	1,320,000	
学校教育補助	135,000	
教育環境整備補助	280,800	
委託料	300,000	
通信運搬費	86,552	
支払手数料	402,744	
振込手数料	2,376	
雑費	20,844	
管理費 消耗品費	756	
支払手数料	1,400	
雑費	1,918	
合計	2,552,390	

2,075,170 - 2,552,390 = -477,220 (正味財産へ減額)

■正味財産 (基金)

*当期首残高	51,936,300
*当期首残高増減高	-477,220
*当期末残高	51,459,080

(注)上記決算書は当法人の決算書の様式と異なりますが、皆様にわかりやすくするために、一般的な収支報告書の様式で表示しました。



伝達式

植樹祭

令和元年 5月29日(水)



令和に変わった5月29日、指月庭にて公益社団法人日本緑化推進機構主催で植樹祭が開催されました。開催のきっかけは、71期同期会の席上、指月庭倶楽部会長高橋成東氏より、県植樹祭主催の群馬トヨペット社長大山駿作氏、上毛新聞社長内山充氏に声を掛け、高崎高校で植樹祭が出来ないかと投げかけたところから話がはじまりました。主役3人が酔った勢いも有って即合意に至り、早速母校の浅岡守事務長に話が届き、加藤聰校長も大喜びで開催を受け入れることに決まりました。それもそのはず、2019年ミスインターナショナル日本代表岡田朋峰(おかだともみ)さんが緑の大使として参加することを聞いたからです。

当日は体育館に全校生徒が集まり、寄贈式セレモニーを行われました。引き続き岡田朋峰さんを囲んでの記念写真を全員で撮り、生徒のテンションも上がりしました。指月庭でのバラ植樹は快晴の下、横断幕も張られ、岡田朋峰さんを中心に大山社長、内山社長、加藤校長、生徒代表が並び賑やかに植樹を終えることが出来ました。今回の植樹祭を楽しく終了できましたことは、指月庭を支えて頂いております(株)高橋造園土木の協力もあってのことでした。

指月庭はつるバラの植え替えも進み、約160本の様々な美しいバラが育っております。日頃手入れをしていただいている指月庭倶楽部員の皆様に感謝申し上げます。

(連絡先:同窓会事務局 萩原 027-320-6024)

創立記念講演会

テーマ

「高高生に伝えたいこと
～群馬県立高崎高校の皆さんへ～」

令和元年
6月14日(金)

NHKアナウンサー 芳川 隆一 氏(99期)



令和元年6月14日(金)13:20より、本校体育館にて全校生徒を対象に創立記念講演会が開催された。芳川氏は、加藤校長が教諭として本校に勤務していた時の教え子である。

同窓生の芳川氏は外国人共生の現状やAI時代の到来をふまえ、「人間だからできること・人間にしかできないことが大切である」と述べ、「自分の経験を大切にし、将来を考えながら、自分の考えを自分の言葉で語ることを高高生に求めたい」、「そのためには多くの経験をして、物事に対して必ず自分の感情を抱き、自分の意見を持つことを心掛けてほしい」と力説なさった。

母校だより

第67回 翠巒祭



テーマ: MayFly



第67回翠巒祭にお越しいただき本当にありがとうございました。「MayFly」のテーマのもとアーチや壁画などをはじめとする実行委員の展示、模擬店やグッズの売り上げ、その他各班課の作業はもちろん、クラス展示と部活動展示という一般生を中心の活動も例年に比べ非常に高いクオリティだったと感じます。来てくださった沢山のお客様から「楽しかった」「来年もまた来たいです」というお声をいただき実行委員長として大変誇りに思います。これも高高生全員が一

丸となって翠巒祭を創り上げた結果だと思います。

来場者数も13,665人とたくさんの方にお越しいただき、今年の翠巒祭も大変盛り上がったと思います。

最後にこの場を借りて、翠巒祭を開催するにあたってご協力してくださったすべての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

実行委員長 3年 櫻井 惣太

卒業生合格者数(全日制) ()内は現役

大学	年次	31年	30年	29年	大学	年次	31年	30年	29年	大学	年次	31年	30年	29年
北海道大		16(11)	9(8)	10(6)	金沢大		15(13)	10(9)	10(10)	中央大		48(34)	37(28)	43(38)
東北大		23(15)	26(18)	30(21)	信州大		3(1)	2(2)	3(3)	明治大		49(30)	52(42)	54(36)
筑波大		6(4)	5(5)	9(8)	名古屋大		6(5)	3(3)	4(4)	上智大		7(3)	9(7)	13(4)
千葉大		8(5)	8(8)	3(2)	京都大		4(3)	3(3)	2(1)	立教大		12(8)	15(13)	12(11)
群馬大		32(26)	31(26)	34(31)	高崎経済大		24(24)	18(16)	17(17)	青山学院大		18(12)	13(12)	10(7)
埼玉大		3(3)	8(7)	8(5)	首都大東京		2(1)	3(3)	5(0)	法政大		48(37)	34(27)	53(37)
東京大		7(4)	8(7)	8(3)	国公立大 医学部医学科		15(8)	13(10)	15(11)	日本大		32(19)	39(32)	74(55)
一橋大		0(0)	1(1)	1(0)						東京理科大		63(43)	77(56)	93(60)
東京工業大		0(0)	1(0)	2(1)						芝浦工業大		67(50)	56(40)	76(64)
東京外国語大		2(0)	2(2)	5(4)						明治学院大		3(1)	8(7)	6(6)
横浜国立大		4(3)	3(2)	2(1)	慶應大		18(7)	20(12)	23(13)	同志社大		8(4)	2(1)	3(1)
新潟大		19(18)	12(10)	21(19)	早稲田大		29(10)	38(28)	36(28)	立命館大		21(12)	10(7)	10(6)

第73回 定期戦

アウェーで勝利、
4連勝成る！



どちらが勝つか分からぬよう混戦になってしまった。しかし、高高生の努力の積み重ねで勝つことができて本当に嬉しい。

残念な結果に終わった競技も多くあったが、選手一人ひとりが全力で戦ってくれた。そのため、団結して前高との対決に臨むことができた。

3タテを達成した綱引きと長縄が特に心に残った。綱引きは、練習のときに班員が集まらないなど多くの問題があった。しかし、実行委員会での会議によって、解決策を模索した。そのようなことがあっての全勝と3タテ成功だったので余計嬉しかった。また、長縄も練習が大変だったが、3タテすることができほんとうに良かった。

実行委員長という慣れない仕事だったが、協力してくれたおかげで今年も勝つことができた。ありがとう。

実行委員長 3年 角田 壮琉

第73回定期戦得点表

部対抗		種目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		水泳	3	6
		駅伝	1.5	7.5
		綱引き	9	0
		玉入れ	3	6
		ソフトボール	6	3
		長縄跳び	6	0
0	6	卓球	2	7
6	0	陸上競技	6	3
6	0	ソフトテニス	3	6
6	0	バレーボール	4	5
0	6	バスケットボール	4	5
6	0	空手道		
6	0	柔道		
0	6	剣道		
6	0	弓道		
3	3	サッカー		
6	0	硬式野球		
6	0	軟式野球		
0	6	バドミントン		
0	6	テニス		
51	33	小計	47.5	48.5
総合計		高高	98.5	前高 81.5

★これまでの戦績は高高42勝、前高24勝、引き分け3です。

活躍部活紹介

運動部	【陸上競技部】	令和元年度全国高校総合体育大会 走高跳 第4位 大平 海史 第74回国民体育大会(茨城) 走高跳 出場 大平 海史 令和元年度全国高校総合体育大会 100m 出場 井上 直紀 第74回国民体育大会(茨城) 100m 出場 井上 直紀
	【水泳部】	令和元年度全国高校総合体育大会 100m・200m背泳ぎ 第4位・出場 三浦 玲央 4×100mメドレーリレー 出場 三浦 玲央、齋藤 翼、金 直輝、野口 直央 第74回国民体育大会(茨城) 少年男子 A200m背泳ぎ 第3位(長水路県高校新)三浦 玲央
	【ソフトテニス】	第74回国民体育大会(茨城) 少年男子団体 第4位 百澤 一眞
	【マンドリン部】	2019年度全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール 優秀賞・特別賞(泉佐野市長賞)
学芸部	【物理部】	ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2019 和歌山 出場
	【囲碁将棋部】	第43回全国高等学校総合文化祭 出場
	【文芸部】	第44回全国高等学校総合文化祭 俳句部門 出場決定 大橋 弘典 第34回全国高等学校文芸コンクール 短歌部門 優良賞 大橋 弘典
	【鉄道研究部】	ペーパージオラマグランプリ 2019 Nゲージ部門 金賞
	【SSH有志】	第14回全国高校生英語ディベート大会 出場決定 大手 一弘、狩俣 直紀、川島 舜、高杉 奏丞、深谷 峻大、藤田 聰悟
	【弁論部】	第44回全国高等学校総合文化祭 弁論部門 出場決定 掛川 翔

「先輩、教えてください！」事業報告

『日常の医療現場を体験』

野口病院 院長 野口 俊昭(78期)

7月16日、今年も母校高高から2年生6名がやって來た。今回も街なかの小規模一般病院の有りのままを見てもらい、医師の仕事だけではなく、看護・手術・検査・リハビリ・薬剤・事務と言った各部門の仕事を理解してもらえるように努めた。学生の殆どは医学部志望という事で、実際の検査の現場も時間をかけて見学してもらつた。皆興味津々で有意義な時間だったのではと思っている。この中から明日の群馬の医療を担う医師が生まれることを願っている。

在校生が県内同窓生の皆さん職場にうかがい、職業に関する体験をさせてもらう進路学習事業が昨年度より始まり、今年度は7月16日(火)に実施されました。受け入れてくださった同窓生の方々に、厚く御礼を申し上げます。

この事業は、在校生が講義や見学・実習を体験することで進路意識を高め、彼らが将来社会貢献できる人材となることを促す企画です。当日は本校2年生約280名が44箇所の職場(昨年度よりも8箇所増えました)を訪問しました。受け入れてくださった同窓生の所感を紹介します。

(株)竹中組 代表取締役 竹中 隆(79期)

昨年に続き2年生を9名受け入れました。卒業後、建設関係に携わりたいという生徒は1名だけでしたが、社会人として組織、地域に必要とされる人材になることの大切さを伝えさせてもらいました。企業の代表、先輩として、高高生に接することにより、今の自分を見直す良い機会だったと思います。子供より若い生徒と接することの難しさを家内に話したところ、「高高が大好きなんだから、来年も後輩のために続けるんだね!」と言われてしまいました。

群馬県議会議員 橋爪 洋介(85期)

2年生の夏、生徒たちは高高生活を謳歌しながらも進路について強く意識する時期となりました。先ずは議事堂で記念撮影を行い、岩井均県議(81期)とともに2時間程の講義や意見交換をさせていただきました。県庁職員の先輩方にもご協力いただき、県議会や県庁の仕事に僅かでも触れてもらったことはお互いに有意義であったと思います。旺盛な吸収力を發揮する高校時代を大切にされ、大きく羽ばたいていただくよう期待しています。

同窓会だより

第118回 高中・高高同窓会新年総会・懇親会 皆様をこころよりお待ちしております。

89期代表幹事 株式会社井ノ上 代表取締役社長 井上 幸己



第118回同窓会新年総会の当番幹事を務めます89期代表幹事の井上です。89期では、10年ほど前から定期的に同期の集まりを開催しておりましたが、当番期が近づくにつれ、積極的にハガキや電話での案内も行い、着実に同期の輪が広がってまいりました。卒業して30年経ちますと、お互い名刺交換するところから会話が始まるわけですが、それぞれの分野で活躍していることがわかると大変頼もしく嬉しくなります。この年齢になって、かつての学友と再び顔を合わせることにはきっと何か意味がある。仲間からそんな声が聞こえてくると、高高同窓会が脈々

と受け継いできたこの歴史と伝統に改めて感銘を受けるとともに、これまでの諸先輩のご尽力に心から感謝いたします。

第118回新年総会が開催される2020年は、日本中が東京オリンピックに湧く記念の年であり、そのような年のはじめに当番幹事を務めさせていただけることを嬉しく思います。かつての仲間と一致団結し、当番期としての役割をしっかりと果たし、ご参加いただいた皆様が楽しく過ごせるよう精一杯設営してまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。同窓生皆様の多数のご参加をお待ちしております。

第118回 高中・高高同窓会新年総会のご案内

同窓会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

諸先輩方、後輩諸氏多くの同窓の皆様方をお迎えし、総会では本会および母校の状況をご確認いただき、懇親会では在学当時を思い起こして共に楽しいひとときをお過ごしいただける様、準備を進めております。

同級生、先輩後輩皆々様お誘いの上、一人でも多くの同窓の皆様がご参加下さい事、当番幹事一同心よりお待ち申し上げます。

【日時】令和2年1月25日(土)午後3時より 【会場】ホワイトイン高崎(TEL. 027-325-5858)

【会費】お一人様 5,000円(当番幹事 89期代表 井上 幸己)

令和元年度高崎高校人事異動

〈退任者・転出者〉

副校長 丸山 正 沼田高(校長昇任)
 事務長 富澤 昌久 前橋高
 事務 井田 勝也 尾瀬高(事務長昇任)
 国語 岡田 準 渋川女子高
 国語 栗原 俊夫 太田高
 地歴 飯出 得男 県教委事務局
 数学 塚越 正隆 伊勢崎高
 理科 萩原 克明 富岡実業高
 英語 沼野 隆 桐生高

〈新任者〉

教頭 田中 幸雄 高崎商業高定
 事務長 浅岡 守 前橋女子高
 国語 菊池 将史 長野原高
 地歴 反町 豊 富岡高
 理科 鈴木 幸英 万場高
 英語 大隅 直樹 桐生女子高
 事務 池田 恭治 沼田高

通信制

英語 竹渕 文明 太田フレックス高定
 英語 栗原 容 前橋西高

〈新任者〉

第26回高崎高校同窓会ゴルフ大会結果報告

●団体戦(各期上位4名のトータルスコア)

《グロスの部》

順位	期	GROSS
優勝	85期	323
準優勝	81期	325
3位	62期	332

《ネットの部》

順位	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	62期	357	67.2	289.8
準優勝	85期	333	43.2	289.8
3位	89期	350	58.8	291.2

●個人戦 《グロスの部》

順位	氏名	期	GROSS
赤城・榛名	沼野 藤雅	89期	81
榛名・妙義	小野里篤雄	66期	80
妙義・赤城	渡邊 俊裕	81期	70

《ネットの部》

順位	氏名	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	庭田登志男	68期	86	15.6	70.4
準優勝	川鍋 太志	81期	84	13.2	70.8
3位	高橋 洋二	89期	84	13.2	70.8



194名が優勝目指してスタート



同窓生からの賞品提供も多数あり



表彰式にも多くの同窓生が参加



チャリティーで翠巒育英会に寄付



次期幹事(83期)の皆さんからご挨拶



当番期をつとめた82期37名

最高気温が35度を超える猛暑日でしたが、無事開催することができました。心から感謝申し上げます。
 82期 ゴルフ幹事 宮本泰明



◆維持会費納入状況－同窓会員の責務・誇りの証－

卒業者数38,233名、生存・住所登録者約21,000名余。これが群馬県立高崎高等学校同窓会の戦力である。維持会費納入者は10月末現在2,600名余り、実に12%強の有効

戦力でしかないという状況です。維持会費納入につきましては多くの会員に周知されていない実態が判りました。同窓会の力は維持会費にあります。母校の発展を願い、後輩達の活躍支援の資金源となっております。同窓会報、翠巒体育会誌を同窓会員全員にお送りしておりますのも、情報をお知らせすると共にご支援を賜りたいからでもあります。各編集委員も同窓会員に同窓生や母校・生徒の活躍

情報を提供すべく真摯に編纂しております。無料で届く同窓会報は維持会費を納めて下さっています会員の支えで成り立っております。『同窓会会則第9条(2)維持会費は一口2,000円とし、一口以上納入するものとする』とあります。同窓会員は維持会費を納入する責務をお持ちです。同窓会員各位の誇りを実行され、校歌にある『伝統よ更に栄あれ』を望むところであります。納入方法につきましては、郵便局振込、コンビニ振込に続きホームページからのクレジットカード振込(12月～翌年4月30日限定)も加え、より納入しやすい工夫も行っております。是非ご利用しご支援を賜りたくお願い申し上げます。

(同窓会本部幹事長 立見 友孝・63期)

期別維持会費納入実績 《2018年12月～2019年10月20日》

納入先	《郵便局口座》 00110-9-17960 群馬県立高崎高等学校同窓会	《クレジットカード振込先》 同窓会ホームページよりクレジット決済フォームにて VISA、Masterカードのみ、12月～翌年4月30日限定

注)コンビニ振込は振込用紙に記載された金額のみのご利用となっております。

◆問合せ先 同窓会事務局:電話&FAX 027-320-6024 メール:suiran@email.plala.or.jp

**募集
補助金**

1 指月庭のバラを維持管理する『指月庭俱楽部員』を募集しております。

120周年に加え全国グリーンキャンペーンでの植樹祭(15ページ記載)にて総本数170本と増えております。春~秋にかけて毎月第2・4日曜午前9時より手入れを行っています。母校に愛着をお持ちか、バラの好きな方は道具持参にて参加していただきたいと思います。

2 若い卒業期でまだ代表幹事、常任理事、理事等役員未決定期に支援。

案内通知用宛名ラベル(住所・氏名入り)、往復はがき代等を支援いたします。

3 企業PR協賛会員も継続募集しております。

ホームページでの企業PR・リクルート活動に活かせます。年間1万円です。

以上のお問い合わせは、同窓会事務局(027-320-6024)にお願いいたします。

◆各地区同窓会報告及び連絡先◆

◆榛麓翠巒会開催

連絡先:幹事 63期 立見友孝 090-1865-4383



平成30年11月10日(土)旧群馬町の食亭「つかさ」にて、第21回榛麓翠巒会『榛麓の集い』が代表幹事58期田中興一郎氏の元、25名の参加にて開催されました。恒例の講演会は62期鈴木越夫氏より、氏の発刊書を基にしたドキュメンタリー映画『陸軍前橋飛行場』への想いを語って頂きました。物故者への黙祷後田中会長挨拶に続き、出席最年長45期浜名敏白氏の乾杯にて懇親会の開催です。県議会議長の85期橋爪洋介氏の近況報告も聞く機会でもありました。応援歌翠巒を熱唱し、最後は52期青柳貞夫氏の張りのある声にて締め、来年も元気にと再会を約束いたしました。榛名山山麓に在住の同窓生の参加を期待しております。

◆東京同窓会開催

連絡先:事務局長 75期 下村昇治 090-3905-5078



平成30年10月26日(金)ホテル椿山荘東京にて東京同窓会が開催されました。68期仙波憲一会長の元約120名が集い、総会に続き75期山越厚志氏より『トランプ政権のアメリカから何を学ぶか』の講演を戴きました。懇親会では串田紀之同窓会長、加藤聰母校校長のご挨拶に続き、最年長56期上原潔氏、最若手113期刀根大輔氏両名の乾杯にて懇親会も大いに盛り上がりました。新年同窓会新旧幹事の諸君も挨拶に立ち、最後は全員で校歌、応援歌を肩を組んでの熱唱にて次年度の開催を楽しみつつ閉会となりました。京浜近辺地区の同窓生の参加をお待ちいたします。

◆藤岡翠巒会開催

連絡先:事務局 66期 福島直人 090-1846-9477



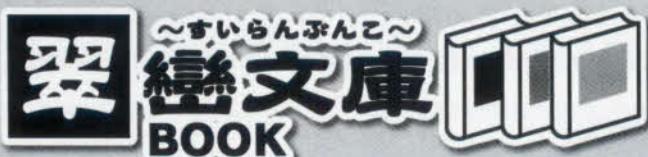
令和元年6月22日(土)藤岡商工会議所にて第12回藤岡翠巒会が開催されました。67期赤松茂光会長の元、約30名の出席にて、総会後には52期清 章司氏の講演『遺偈(ゆいげ)、八十五年醉夢の中~』と題し氏の人生経験をお話し頂きました。懇親会では阿久澤茂同窓会長挨拶に続き、前同窓会長串田紀之顧問の乾杯にて賑やかに歓談へと進みました。校歌、応援歌に続き藤岡翠巒会ならではのクラス会の歌を肩を組んで熱唱です。最後には藤岡地区の同窓生の更なる参加を期待して、黄綬褒章受章74期秋山賢治氏の締めにて閉会となりました。

令和元年 褒章・叙勲等受章者

(期別50音順 敬称略)

瑞宝双光章 佐藤 尚義(50期)
 瑞宝中綬賞 鈴木 武文(51期)
 瑞宝双光章 渡辺喬三郎(51期)
 瑞宝中綬賞 吉井 三夫(54期)
 瑞宝双光章 小田切一成(56期)
 旭日双光章 高橋 基治(56期)

瑞宝双光章 小林 二郎(57期)
 瑞宝中綬章 飯野 建郎(61期)
 瑞宝双光章 田島 美徳(65期)
 瑞宝中綬章 豊田 建夫(66期)
 黄綬褒章 秋山 賢治(74期)
 黄綬褒章 富永 伸樹(78期)



◆翠巒文庫について◆

翠巒文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈平成30年10月1日～令和元年9月30日〉

●著書／作者

- 母の100歳人生 須藤 宜(49期)
- Judo in the U.S. 高橋 雅足(63期)翻訳
- ドリームコネクトと社長のひみつ 学校の勉強って本当に必要なの? 石上 正之(69期)
- 東京藝術大学の彫刻と深井隆 深井 隆(69期)
- 天使の羽 寺島 博(通信22期)

寄贈

《フットサル用ゴールポスト寄贈》



同窓会長阿久澤茂氏より、フットサル用のゴールポストを寄贈していただきました。阿久澤会長は本校サッカー部OBであります。ゴールポストの無いことを懸念なさり、生徒達のフットサル活動への支援をお考えになり、寄贈してくださいました。いただいたゴールポストは、部活動や体育の授業で活用させてもらっています。

《指月庭用ベンチ寄贈》



植樹祭に間に合わせるべく、91期守口智氏(日栄工業株)専務、上写真左)より、指月庭にピッタリの高級ベンチ2脚の寄贈がありました。指月庭パーゴラ中央に設置致しました。生徒達も折に触れ利用しております。母校へは、美しいバラ開花(春・秋)の時期を選び是非お立ち寄り下さい。

高同窓会 予算決算報告

平成30年度 通常会計決算

(平成30年1月1日～平成31年12月31日)

収入の部

費目	予算額	決算額	増△減	備考
前年度からの繰越金	875,665	875,665	0	前年度から繰越金
入会金	2,852,000	2,931,300	113,700	全員制287名(@9,900) 通信制45名(@2,000)
維持会費	8,000,000	7,705,000	△ 295,000	2,697名(常任理事10,000、理事 5,000、一般2,000)
利息	-	-	-	
雑収入	300,335	396,659	96,324	Webサイト協賛金・記念品収入・ 名簿収入・利息ほか
合計	12,028,000	11,908,624	△ 84,976	

支出の部

費目	予算額	決算額	残額	備考
会議費	1,200,000	1,374,752	△ 174,752	新年総会準備ほか
祝賀費	1,000,000	893,127	106,873	叙勲・卒業記念品ほか
餞別費	200,000	180,000	20,000	平成29年度末離退職員餞別
慶弔費	100,000	48,600	51,400	供花
通信印刷費	600,000	586,926	13,074	維持会費督促状・納入礼状・ 翠柳会館電話代ほか
旅費	140,000	130,000	10,000	東京同窓会出席者旅費
同窓会報費	3,950,000	3,915,452	34,548	同窓会報発行費および発送費
事務費	1,400,000	1,319,974	80,026	事務局職員人件費(退職金 積立60,000)、事務用品ほか
同窓会長賞費	100,000	87,111	12,889	賞状・記念品ほか
資料整理費	400,000	239,760	160,240	Webサイト管理費ほか
補助費	1,500,000	1,400,000	100,000	翠柳体育会・生徒活動補助 部活動補助
環境整備費	700,000	715,482	△ 15,482	指月庭維持管理費
雑費	600,000	846,828	△ 246,828	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	0	0	0	
予備費	138,000	0	138,000	
合計	12,028,000	11,738,012	289,988	

収入総額(円) - 支出総額(円) = 差引繰越残額(円)
 11,908,624 - 11,738,012 = 170,612

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	14,128,915円
	平成30年度通常会計より	0円
	120周年記念事業寄付金	0円
	事務局職員退職金積立	60,000円
	利息	765円
合計		14,189,680円

支出の部	120周年記念事業	0円
	母校充実費	4,104,000円
合計		4,104,000円
当年度差引残額		10,085,680円

令和元年度 通常会計予算

(平成31年1月1日～令和元年12月31日)

収入の部

費目	今年度予算	前年度予算	増△減	備考
前年度からの繰越金	170,612	875,665	△ 705,053	前年度から繰越金
入会金	2,852,000	2,852,000	0	全員制280名(@9,900) 通信制40名(@2,000)
維持会費	8,000,000	8,000,000	0	3,000名(常任理事10,000、理事 5,000、一般2,000)
利息	-	-	-	
雑収入	300,388	300,335	53	Webサイト協賛金・記念品収入・ 名簿収入・利息ほか
合計	11,323,000	12,028,000	△ 705,000	

支出の部

費目	今年度予算	前年度予算	増△減	備考
会議費	1,200,000	1,200,000	0	新年総会準備ほか
祝賀費	900,000	1,000,000	△ 100,000	叙勲・卒業記念品ほか
餞別費	180,000	200,000	△ 20,000	平成30年度末退職職員餞別
慶弔費	70,000	100,000	△ 30,000	供花
通信印刷費	500,000	600,000	△ 100,000	維持会費・納入礼状・理事会 通知・翠柳会館電話代ほか
旅費	130,000	140,000	△ 10,000	東京同窓会出席者旅費
同窓会報費	3,950,000	3,950,000	0	同窓会報発行費および発送費
事務費	1,400,000	1,400,000	0	事務局職員人件費(退職金 積立60,000)、事務用品ほか
同窓会長賞費	100,000	100,000	0	賞状・記念品ほか
資料整理費	250,000	400,000	△ 150,000	Webサイト管理費・ 各会報のデジタル化費用
補助費	1,500,000	1,500,000	0	翠柳体育・生徒活動補助・ 部活動補助
環境整備費	600,000	700,000	△ 100,000	指月庭維持管理費
雑費	500,000	600,000	△ 100,000	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	0	0	0	
予備費	43,000	138,000	△ 95,000	
合計	11,323,000	12,028,000	△ 705,000	

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	10,085,680円
	平成31年度通常会計より	0円
	120周年記念事業寄付金	0円
	事務職員退職金積立	60,000円
	利息	320円
合計		10,146,000円

支出の部	母校充実費	1,500,000円
合計		1,500,000円



令和2年度維持会費納入のお願い

同封の振込取扱票により、郵便局又はコンビニエンスストアにて納入いただきますようお願いいたします。なお、ご住所、金額等を変更される場合は郵便局での扱いになります。(郵便局での納入は、できればATMのご利用をお願いいたします)。またホームページよりクレジット振込も可能となりました。詳しくは本同窓会報20ページをご覧下さい。



群馬県立高崎高等学校 同窓会報

【編集委員】

田端 穂(54期) 吉永哲郎(54期) 大木紀元(58期)
若山 享(58期) 立見友孝(63期) 新井重雄(78期)
竹内 聰(79期) 林 孝彦(81期) 菊地将史(107期)

編集 後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第52号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださいまして、誠にありがとうございました。(編集委員)

【編集委員からのお願い】

同窓会報1号(1967年)~6号(1972年)をお持ちの方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

群馬県立高崎高等学校 同窓会事務局

〒370-0861 群馬県高崎市八千代町2-4-1 TEL&FAX 027-320-6024 Eメール:suiran@email.plala.or.jp